

# キンメダイの資源回復に向けた 種苗生産技術の開発

(予算区分 受託 研究期間 2022 年度～)

担当：水産・海洋技術研究所 伊豆分場 伊藤結花  
深層水科 稲葉晃誠

## 【研究の背景とねらい】

- ・ 本県のキンメダイ水揚量は最盛期の 7,000 トンから 1,183 トンまで減少しています。
- ・ 資源回復に向け、漁業者は自主的な資源管理に取り組んでいますが、種苗放流の実現にも期待が寄せられています。そこで、県は第 8 次栽培漁業基本計画（2023 年～）の研究対象魚種と位置づけ、研究の第一段階として種苗生産技術の開発を目指しています。
- ・ 本研究は、水産庁の「さけ・ます等栽培対象資源対策事業」において、水産研究・教育機構などと共同で実施しています。

## 【これまでに得られた成果】

(2024 年度までの成果)

- ・ 筑波大学と共同開発した精子の冷蔵保存技術によって人工授精を効率的に行えるようになり、受精卵を安定して獲得できるようになりました。
- ・ 受精からふ化後の適水温を検討したところ、受精は 10℃、卵管理は 15～20℃、ふ化は 20℃、仔魚の飼育は 20～25℃が適していることがわかりました。
- ・ 夜間操業調査にて 22 時台に釣獲した親魚から良質卵が得られました。この受精卵から孵化した仔魚を東京海洋大学の飼育施設で飼育したところ、最長で 33 日間の生存を確認し、過去の記録（20 日間）を更新しました(図 1)。



図 1 33 日齢のキンメダイ仔魚

(2025 年度の成果)

- ・ 仔魚の飼育に適した照度を検討したところ、200lux 以上の照度が必要であることがわかりました。
- ・ 産卵期の未排卵親魚にホルモン (GnRHa) を投与することで(図 2)、成熟進行を促すことができ、卵の安定獲得に向けて前進しました。



図 2 親魚へのホルモン投与

## 【期待される効果】

- ・ 栽培漁業の推進によって、積極的な資源回復の取り組みが可能になります。
- ・ 飼育試験で得られた知見により、キンメダイ初期生態の解明が期待されます。

## 【今後の計画】

- ・ 親魚の捕獲や飼育方法を再検討し、良質卵の安定的な確保を目指します。
- ・ 深層水を使った長期養成により、親魚の成熟技術の確立を目指します。
- ・ 適切な初期餌料や給餌方法を検討するとともに、飼育環境の最適化を図り、ふ化仔魚の生残率の向上と長期間の飼育を目指します。

(作成 2026 年 4 月)